

【準特選】

わたしの時代

能古見小学校 四年 栗山 鈴彩

わたしは、毎日お父さんからいろいろな話をきかせてもらっています。ある日、いつものようにお父さんから、話を聞かせてもらいました。お父さんはその日、せんそうがあっていた時代についての話をしてくれました。

お父さんは、おじいちゃんが生まれた時にはせんそうがあっていたこと、その時は運動場をいもを育てるために、畑にしていたことなどいろいろなことを話してくれました。

その後、平和集会がありました。平和集会では、せんそうがあっていた時代の子どもたちは、くつがなかったから学校のくじで当たった人一人しかくつがかるられなかった

ことや、ファットマンという強大なばくだんがあったことなどを教えてもらいました。中でも一番おどろいたことは、ファットマンがばく発した時に出るせん光を浴びた人は、病気になって死んでしまうことがあると聞いたことです。

わたしは、お父さんがせんそうの話をしてくれて、せんそうのおそろしさを深く知ることができ、平和集会でせんそうの話や平和についての話を聞いたことで、平和の大切さをあらためて深く思うことができました。

平和集会が終わったら、先生がせんそうの本を読んでくれました。その本でも、ファットマンのせん光で病気になるって死んでしまうことがわしく書かれていて、千羽のおりづることなども書かれていました。

わたしは、その本を先生から読んでもらって、命のとうとさやせんそうをやめてほしい人たちの思いや、その人た

ちの活動などを知って、とても感動して、今でも心にのこっています。

それから、三年ほど前のことですが、わたしに弟が生まれました。その時はわたしの家族に続いているんな人たちがよろこび、うれしなみだを流しました。今、その時のことをふり返って考えてみると、せんそうがあっていた時代は、わたしみたいに弟ができて、その時代の子たちはばくだんによるこうげきや、相手によるこうげきで弟を失ってしまうかもしれないと考えると、今は本当に幸せだなと思います。

しょう来わたしは、学校の先生になって、せんそうのことを知らない子たちに、せんそうの話を語って、平和のことや命のとうとさについて考えてほしいと思います。